

外来診療
担当表
(2025年度10月)

乳健：乳児健診
予接：予防接種
ア：アレルギー疾患
慢：慢性疾患

木曜日：午後
第2・3・5週 友政弾
第1・4週 神谷尚宏
土曜日：午前午後
第1週 真柄達也
第2・5週 梶原道子
第3週 山野晴樹
神経外来：山内泰輔
内分泌外来：鈴木友梨
内科：水沼喜章

曜 日	8：30～12：00	14：00～16：00	16：00～18：00
月	小児科・内科(佐々木・野上・大川)	乳健・予接・ア・慢(佐々木・大川)	小児科・内科(佐々木・大川)
火	小児科・内科(佐々木・野上・大川)	乳健・予接・ア・慢(大川・佐々木)	小児科・内科(大川・佐々木)
水	小児科(大柴・野上・大川)	乳健・予接・ア・慢(大川・大柴)	小児科・内科(大川・大柴)
	内科・循環器(水沼)		
	小児科・内科(佐々木・野上・大川)	乳健・予接・ア・慢(佐々木・大学)	小児科・内科(佐々木・大学)
木	発達外来(関戸先生)		
	発達外来(三木先生・小澤先生) 不定期		
金	小児科(佐々木・大柴・大川)	乳健・予接・ア・慢(佐々木・大柴)	小児科(佐々木・大柴)
土	8：30～12：00	13：00～14：00	14：00～15：00
	小児科・内科 (大川・佐々木・大柴・梶原・大学)	乳健・予接・ア・慢 (大川・佐々木・大柴・梶原・大学)	小児科・内科 (大川・佐々木・大柴・梶原・大学)
	第1土 神経外来(山内)	午後 神経外来(山内)	
	第2土 アレルギー(大柴)	午後 アレルギー外来(大柴)	
	第3土 内分泌(鈴木)		
	すくすく相談室 第1・2・3・4・5土(幸本・深嶋)、第1・2・4土(白川)		
日・祝祭日	9:00～12:00(休日診療)		
	小児科・内科・予接		

■電話予約サービスコード一覧 電話予約：03-3758-0099

科 目	サービスコード	科 目	サービスコード	種 類	サブサービスコード	種 類	サブサービスコード	科 目	サービスコード	種 類	サブサービスコード
小児科一般	11#	予防接種	15#	5種混合	11#	小児MRワクチン	21#	予防接種	15#	DT	28#
内科一般	12#			小児肺炎球菌	15#	おたふく・水痘	22#			シルガード(女性のみ)	34#
アレルギー/慢性疾患	13#			ロタウィルス	17#	水痘	23#			成人MRワクチン	41#
乳児検診	16#			B型肝炎ワクチン	18#	おたふく	24#		インフルエンザワクチン	保存剤あり	11#
花粉症外来	25#			BCG	19#	日本脳炎ワクチン	25#			保存剤なし	12#

※ご予約の際は、サービスコードを入力してください。予防接種 は サブサービスコードの入力もお願いいたします。

※その他のサービスコード：ご予約確認 「20#」・ご予約の取り消し 「30#」・空き状況の確認 「40#」

◎インターネットでご予約の場合はQRコードのご利用、または当院ホームページの右上部〔インターネット予約〕よりお願いいたします。



院内設備：隔離感染症室、電話自動予約機(24時間対応)、電子カルテ、空気清浄装置(臓器移植にも対応できる)(4台)、オゾン空気清浄・防臭装置(3台)、電解水発生装置、消毒用専用スプライザー、院外呼び出しコール、ソーラ発電および大型蓄電池
検査機器：レントゲン装置、デジタルX線画像診断システムFCR CAPSULA自動解析装置付心電計、血球分析器、CRP/ASO測定機、検尿器、電子スパイロメーター、血糖測定器、経皮酸素分圧モニター、パルスオキシメーター2001、聴力検査機器、心電図モニター、超音波踵骨測定装置、A-100EXPRESS、スポットビジョンスクリーナー、ID Now(SARS-CoV2遺伝子増幅機器)、OD検査用自動血圧計
救命装置：自動体外式除細動装置(AED) ライフバックCR PULS

医療法人社団 オー・シー・エフ・シー(OCFC)会



OCFC
Okawa Children & Family Clinic

大川こども&内科クリニック

小児科・内科・アレルギー科 (併設 病児保育室 うさぎのママ)

院長 大川 洋二

診療時間：月～金 午前 8:30～12:00 午後 2:00～6:00
土 午前 8:30～12:00 午後 1:00～3:00
日曜・祝日 午前 9:00～12:00

予約専用 03-3758-0099 代表番号 03-3758-0920

E-mail: info@ocfc.jp URL: http://www.ocfc.jp

Xでも情報発信中です。 Xアカウント @ocfc2025

うさぎのママ お問い合わせ

直通電話 03-3758-0066 E-mail: usagimama@ocfc.jp

案内図

東京都大田区多摩川1-6-16
東急多摩川線矢口渡駅前



OCFC NEWS

2025年10月1日号

Vol. 78

大川こども&内科クリニック インフルエンザワクチン10月1日開始、予約受付中

10月1日よりインフルエンザワクチンの接種を開始します。今年からワクチンは3価ワクチンとなりB型山形株がなくなりました。ここ数年の流行がないためです。

●今年のワクチン株は

A型： A/ビクトリア/4897/2022(IVR-238)(H1N1)
A/パース/722/2024(IVR-263)(H1N3)
B型： B/オーストリア/135941/2021(BVR-26)
(ビクトリア系統)

です。予約は全診療時間帯にて接種を行います。一般受診者とは別に接種を希望される方は、週日では14時から16時、または土曜日、日曜日のご予約をお勧めします。

接種回数：3歳未満は2回接種

3歳から13歳未満では1～2回
13歳以上は1回

費用(消費税込み)：

チメロサル含有ワクチン：3,500円

(病児保育登録利用者：3,000円)

チメロサルフリーワクチン：4,500円

(病児保育登録利用者：4,000円)

経鼻ワクチン：8,800円

(2歳から49歳まで原則1回接種)

●大田区居住の方への助成

不活化ワクチン：生後6か月から19歳未満
2,000円助成(13歳未満では2回助成されます)

経鼻生ワクチン：4,000円助成(2歳から19歳未満)

不活化ワクチンと生ワクチンの助成の併用は不可。

●高齢者助成

65歳以上または基礎疾患のある60歳以上の方の自己負担金は2,500円。

●ワクチン効果

不活化ワクチンの発症予防効果は年齢により異なり、20～50%ですが重症化予防効果がより期待できます。一方経鼻生ワクチンは発症予防効果がつよく、不活化ワクチンの効果よりさらに30%程度上昇するといわれています。また注射ではないので接種時の痛みはありません。しかし血中の抗体価の上昇は弱く、発症予防と重症化予防を考えると生ワクチン接種と同時に不活化ワクチンの接種をお勧めします。別の日に分けて接種するときは生ワクチンを優先してください。小、中、高、大学への受験生やどうしても罹患したくない場合には是非お勧めします。予約は受付まで電話でお願いします。入荷後接種日を決めます。出荷量が少ないようです。お早目のご予約をお勧めします。

●インフルエンザ出張接種

20名以上接種希望者があれば出張接種いたします。大田区、品川区、目黒区、世田谷区、港区、渋谷区、川崎市です。地区の保健所の認可が必要ですので、お申し込みから接種まで1か月程度の期間が必要です。矢口地区の徒歩圏内では10名程度からお引き受けいたします。受付にてご確認ください。

OCFC INFORMATION

感染症だより

2025年4月 から8月 までの感染症報告です。この時期一番多い感染症は感染性胃腸炎でした。次に多い疾患がマイコプラズマ感染症、溶連菌感染症です。7月、8月では成人は新型コロナウイルス感染症、小児ではヘルパンギーナが多く発症しています。

●新型コロナウイルス SARS-CoV2感染症

2020年1月から流行したSARS-CoV2感染症は次第に感染者が減り、症状も軽くなる傾向にあります。4月から8月までに224人に感染を確認しておりますが、7月が65人、8月が91人と多く、9月まで流行がありそうです。また12月からの再流行も危惧されます。成人では症状が軽く、発熱の時間も数時間と短いこともありますが、現在流行中のオミクロン系ニンバス株は感染力が強く、小児、幼児を含め家族に感染し、高齢者、糖尿病など基礎疾患のある方は重症化するリスクがあります。国内、国外を問わず旅行後の発熱では検査を受けてください。それが家族を守ることに繋がります。予防接種もお勧めです。

●インフルエンザ

2024/2025年インフルエンザの流行は2月以降激減しましたが、決して消滅したわけではなく4月以降も発症は続いています。4月はB型20人、A型は19人でしたが5月には6人、6月は3人と減少し、その後7月は10人、8月は8人と増えました。例年夏季のインフルエンザの発症はインバウンドの影響もあり3～4人でした。今年は海外からの帰国者が中心で、東南アジア、オーストラリア、米国からの帰国者、または万博帰りの感染者でした。症状の重い方はいらっしゃいません。このままくすぶって10月以降の流行につながる可能性があります。インフルエンザワクチンの接種をお勧めする所以です。

●感染性胃腸炎

嘔吐下痢を主症状とする感染性胃腸炎は冬から春にかけて多く、2月、3月は毎月400人ぐらい発症しています。多くはノロウイルス感染症です。4月以降毎月120人程度に減少し、8月までに582人に診断しています。7月、8月の原因ウイルスとしてはアデノウイルスもあります。アルコール消毒は無効であり塩素系の消毒または熱湯消毒(85度以上、1分間)が有効です。おむつはビニール袋などに密閉して廃棄します。細菌感染症も見逃せません。サ

ルモネラ、キャンピロバクターが主要な細菌です。サルモネラの検出は今回ではありませんでしたが、キャンピロバクターが7例に確認されています。キャンピロバクターは動物の腸内に生息し、糞便、下水に生息しています。調理を介して感染する可能性があります。長引く下痢や血便では注意しましょう。腸管出血性大腸菌も夏季の下痢、血便では見逃してはいけません。

●今年の夏風邪はおとなしかった

夏風邪には手足口病、ヘルパンギーナ、アデノウイルス感染症があります。手足口病の発症は少なく4月から8月までで31人と例年の10分の1以下でした。手足の発疹は一部の方を除き僅かでした。ヘルパンギーナも少なく88名でこれは例年の半分でした。しかし8月では乳幼児の発熱の大多数を占める時期もありました。発熱は1日か2日間ですが、のどの痛みが強く、食事がうまくできない期間が4～5日続きます。

アデノウイルス感染症は59人と例年の倍近くに発症し、多くは流行性角結膜炎でした(35人)。球結膜の充血が特徴で、眼瞼結膜もべっとり充血し、眼脂が多いようです。点眼薬は原則抗生剤、ステロイド剤の2剤ですが、治癒までに1週間以上かかることもあります。結膜からの検査は痛みを伴うことも多く、臨床的に診断することも少なくありません。家族内での流行となることが多いようです。タオルの共用は禁忌です。ほかに咽頭結膜熱(プール熱)9人、滲出性咽頭炎15人でした。

●溶連菌感染症とマイコプラズマ感染症

溶連菌感染症は昨年ほどではありませんが、266人に診断しています。7月、8月になり減少傾向です。今年は咽頭所見が乏しい方にも発症例があり、検査件数が増えています。咽頭発赤や扁桃肥大が著明で、感染が繰り返す場合は扁桃摘出も必要かもしれません。ペニシリン10日間、またはセフェム系抗生剤を7日間内服後は検尿をお勧めします。感染後の急性腎炎を早期発見するためです。抗生剤終了直後は必須ですが、4週後の検査は希望者だけとしています。

マイコプラズマ感染症は4月から8月までで211人に診断しています。月に40人前後の診断です。病初期での咽頭からの抗原検査は精度が高いのですが、検出率は低いようです。そこで4日間以上発熱咳嗽が継続するときには

採血による抗体検査を行います。感染直後に産生されるIgM抗体で判断します。治療はアジスロマイシンを処方しますが、効果が悪いときはミノマイシンを使用することがあります。咳嗽がなく発熱が継続するタイプのマイコプラズマ感染症もあり、診断に時間がかかることもあります。

●百日咳の流行

今年になって百日咳が大流行です。8月までに日本では6万人以上の感染者があり、OCFCでも22人に診断しています。1～2週間以上継続する咳嗽では百日咳を疑い、検査を行います。多くの方は発熱がなく、慢性咳嗽あるいはアレルギー性咳嗽として治療を受けていることが珍しくありません。咳は6週から8週ほど継続して自然に収まります。治療および感染を防ぐためにはマクロライド系抗生剤を服用しますが、耐性菌も多くST合剤を使用することもあります。0か月の乳児が罹患すると重篤となりますので、妊婦さんをはじめ多くの方にワクチン接種(DTP)をお勧めします。

●RSウイルス、ヒトメタニューモウイルス感染症

RSV感染は18名です。0歳児では重症化する危険も高く、乳児を守るためには妊婦さんへのRSVワクチン接種が必要となります。ワクチンによりお母さんにできた抗体はおへそから胎児に移行します。ヒトメタニューモウイルス感染症は僅かでした。

病診連携

他の医療機関への紹介または受け入れは111人でした。紹介入院は20人で東邦大学の小児科、呼吸器科です。そのほか荏原病院小児科、内科、昭和医大小児科、大森日赤小児科、NTT東日本などです。肺炎以外には小児の腎性高血圧、RSV感染症、IgA血管炎、川崎病が主であり、成人では消化器がん、肺炎、気胸などがありました。紹介受け入れでは東京医療センターからの喘息管理や昭和医大からの先天性心疾患の日常管理依頼のほか近隣のクリニックからマイコプラズマ感染症、百日咳疑い、咽頭喉頭炎、遷延する発熱精査加療がありました。外来紹介は東邦大、昭和医大、慈恵医大の各附属病院、荏原病院大森日赤、他近隣の耳鼻科、眼科、皮膚科に紹介しております。

外来処置検査

処置室での対応は4月から8月までで6205人でした。抗生剤あるいは脱水での点滴は189人であり、肺炎など感染がはっきりしている疾患、脱水症での治療はほとんど院内にて改善しております。またクリニックの特徴で

ある服薬指導、院内内服は152人の方がご利用されており、皆様上手にお薬が飲めています。採血は878人に施行しアレルギー検査を含む一般検査も行っています。百日咳抗体検査もここで行っています。迅速抗原検査を行った方は3462人でした。新型コロナウイルス抗原検査が242人、溶連菌検査1062人、インフルエンザ730人です。マイコプラズマ抗体検査408人、抗原検査は9人でした。2歳以下の方にはRSV検査を73回行っています。

子育て支援

じっくり外来を最初に受診していただき、症状、希望時応じて各外来に振り分けます。夜尿症や起立調整障害、肥満症、チック症などはそのままじっくり外来にて拝見しております。

病児保育室うさぎのママ

病児保育室うさぎのママの4月からのご利用は1341人となっています。感冒、上気道炎が一番多い疾患ですが、嘔吐下痢の感染性胃腸炎でのご利用も多くなってきています。ご利用の際はご家族の発熱状況や、園での流行状況、直近での移動歴、旅行歴をお聞きしています。保護者の方が発熱あるときは新型コロナウイルスの検査で陰性を確認後お預かりしています。うさぎのママでは隔離室が3部屋あり、新型コロナウイルス、インフルエンザ、水痘でのご利用も可能です。ご利用の際は一般の方とは別のルートで直接隔離室においでいただいております。他の病児への感染リスクはありません。

未就学児療育施設うさぎの学校

未就学児で発達に凸凹があり、どのように子育てをしたらいのか難しい児に対して療育を行っています。東京都及び大田区から認可された施設です。心理士3名、言語聴覚士2名での対応を行っています。個人または2～4人での療育です。発達障害の疑いがあれば児童精神科での治療も可能です。うさぎの学校ご利用者は684人です。まだ余裕がありますので是非ご利用ください。

すくすく、児童精神科

学童以降ではクリニックのすくすく外来にてカウンセリングを行っています。カウンセリングは心理士、言語聴覚士が担当します。医療的観点からは当院児童精神科にて診察投薬を行うこともあります。すくすくのご利用は748人、児童精神科の受診者は748人でした。